

服務倫理委員会だより No.3

文責：副校長 豊田 邦久 R7. 5. 12

5月は出張等が増えてくる時期です。交通加害事故・速度超過防止のためにセルフチェックをお願いいたします。

☆ 「三つの10」(10分早めの出発、10パーセント減速、十(10)分な車間距離)

交通加害事故・速度超過防止セルフチェックシート



○各項目に✓をしてセルフチェックしてみましょう！

(ア：はい イ：どちらともいえない ウ：いいえ)

	項目	ア	イ	ウ
1	教職員は私有車で通勤する機会が多い分、交通事故等に遭遇するリスクも高くなることを認識している。			
2	車両等は、扱い方次第で人命を奪う凶器になるということを認識している。			
3	遅刻を気にして事故を起こさないよう、十分ゆとりをもって早めに出勤するようにしている。			
4	遅刻しそうになっても、むやみに通勤経路を変更したり、速度を上げないようになっている。			
5	追突事故や衝突事故を防ぐため、十分な車間距離を保つようにしている。			
6	前方車両が停止する「だろう」や発進する「だろう」、対向車両が来ないうちに右折できる「だろう」と思いこまず、停止する「かもしれない」や発進しない「かもしれない」、対向車両が予想より速度が出ている「かもしれない」と注意を払って運転している。			
7	高齢者や子どもが、歩いていたり自転車を運転したりしているときは、特に注意を払い、相手の不意の動きにも対応できるようにより注意を払って運転している。			
8	スマートフォンの操作などによる「ながら運転」は、事故を起こせば即免許停止処分になることを知っている。			
9	運転中、車内の荷物が床に落ちたり、携帯電話の着信音などが気になった場合は、安全な場所で停車してから、対応するようにしている。			
10	制動距離（ブレーキが効き始めてから停止するまでの距離）は、速度の二乗に比例して長くなり、自動車が衝突したときの衝撃力は、速度の二乗に比例して大きくなることを理解している。			
11	法定（指定）速度30 km/h（高速40 km/h）超の速度超過によって検挙された場合は、懲戒処分となることを理解している。また、50 km/h超の場合は、さらに処分量定が重くなることを理解している。			
12	「速度超過でつかまるのは運が悪い。」「事故さえ起こさなければ少々の速度超過は構わない。」などの認識を持っている同僚に対しては、その誤りを指摘するようにしている。			
13	私有車に児童生徒を同乗させる場合は、保護者からの承諾書を得るなど、必要な手続をとっている。			
14	事故を起こした際には、消防、警察、管理職への連絡など、処理すべきことを理解している。			

質問	回答欄		
上記のチェック項目のうち、あなたが特に注意したいと思う項目の番号を右の欄に3つ記入してください。			